

障害者スポーツの発生と現状

: 車椅子バスケットボールに着目して

A study of origin and present state in adapted sports

: focusing on wheel chair basket ball

1K07B120-9 反町真理子

指導教員 主査 磯 繁雄 先生 副査 田内健二 先生

【目的】

本研究では車椅子バスケットボールとバスケットボールの戦略を比較し、ルールの違いから読み取る事のできるプレイスタイルの違いを明らかにする事を目的とした。そしてその事から、身体障害者スポーツを代表する競技である車椅子バスケットボールを、今後は競技スポーツとして発展していく為の案を考察する事を目的とした。

【方法】

障害者スポーツ、車椅子バスケットボールの歴史的な経過を記した著書・先行研究を精読し、調査を進めていく。そこで1章では障害者スポーツの歴史、2章では車椅子バスケットの歴史、更に3章では、車椅子バスケットボールの現状として、車椅子バスケットボールとバスケットボールのルールの違いから生まれる戦略を映像を用いて比較した。映像は2009年度84回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権大会（オールジャパン2009）男子決勝（日立 対 アイシン）と2009年度内閣総理大臣杯奪取第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会男子決勝（千葉ホークス 対 宮城MAX）を使用した。車椅子バスケットボールとバスケットボールの二試合の映像から①一度の攻撃でシュートにいくまでのパス回数②シュートの種類（a, レイアップシュート/b, 3P/c, リバウンドシュート/d, ゴール下でのシュート/e, ペリメーターシュート/f, ペイントエリアシュート）③スコアを比較した。

【結果】

障害者スポーツはリハビリテーションから始まったものであるが、今はオリンピック同様に4年に一度、夏季・冬季と両季においてパラリンピックが開催され、スポーツの祭典として大いに盛り上がりを見せている。

車椅子バスケットボールにおいても障害者スポーツの数少ない団体競技として、また障害者スポーツを代表するスポーツとして多くの人に親しまれている。

映像分析からみた車椅子バスケットボールとバスケットボールの違いは①パス回数においては、車椅子バスケットが536回に対してバスケットボールが488回と、僅かではあるが車椅子バスケットボールの方が上回った。②シュートの種類において顕著な差が現れた

ものは、3Pがバスケットボール46本に対して車椅子バスケットボール3本、ペイントシュート車椅子バスケットボール34本に対してバスケットボール5本であった。

【考察】

映像分析から①パス回数は車椅子バスケットボールの方が多いことがわかった。その要因として、車椅子バスケットボールにおいてスクリーンプレイが多い事が挙げられる。スクリーンプレイが起これば、味方からパスが来る事が多い。短いパスが続きそのプレイがシュートに繋がる。その事が数字に反映されているという事がわかった。また②シュートの種類から、車椅子バスケットボールにおいてアウトサイドシュートは殆ど成立しないという事がわかった。その要因として、バスケットボールはドライブをするとヘルプディフェンスが寄ってきて、それに味方が合わせるキックアウトプレイからの3Pが多くみられるが、車椅子バスケットボールはディフェンスがサイドステップをする事が不可能で、ヘルプディフェンスが殆ど機能しないため、3Pはあまり生まれにくい。しかし、ペリメーターやペイント付近のシュートからは、その逆の発想から考えられる。スクリーンプレイを有効に使える事で、自分自身や味方がフリーになり、そこからそのままシュートを打てることがわかった。

現在車椅子バスケットボールは「ひとつのスポーツ」として、また健常者と障害者が全く同じルールで行う事のできるスポーツとして普及しつつある。

大分県で毎年行われている大分車いすマラソン大会は、県をあげての大きなイベントとなり、練習風景には健常者と障害者が共に公園を走る様子もみられる。車椅子バスケットボールもこのような環境を整え、バスケットボールの戦略を車椅子バスケットボールにも反映させていくことができれば、その事が本当の意味でのバリアフリーに繋がっていくのではないかと考える。